

【2022 年度/専門科目領域/専門科目群/理学療法学科】

科目名	ナンバリング	区分 (必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
理学療法演習 I -2		必修	1	1	後期
担当教員	研究室	電子メール ID	オフィスアワー		
坂本 祐太 他	D310	y.sakamoto	月曜 10:30~12:10		
授業の目的・概要	理学療法では解剖学、生理学、運動学の基礎医学の知識が必要不可欠である。そこで、理学療法演習 I -2 では、講義および演習班でのグループワークによって、理学療法に必要な基礎医学や疾病への理解、骨、筋の基本的知識を深めることを目的とする。				
授業形式・方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面授業 <input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input checked="" type="checkbox"/> PBL <input type="checkbox"/> 反転授業 <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション・レポート <input type="checkbox"/> 遠隔授業(双方向型) <input type="checkbox"/> 実習 <input checked="" type="checkbox"/> 実技 <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input type="checkbox"/> 遠隔授業(自主学习) <input type="checkbox"/> その他 ()				
学習上の助言	授業内外のグループワークや学習が重要となる。自ら学ぶ姿勢を持ち、発言が苦手な学生もグループへの積極的な貢献を行うことを推奨する。				
教科書	トートラ 人体の構造と機能 第4版/編訳:桑木共之、黒澤美枝子、高橋研一、細谷安彦/丸善株式会社 機能解剖と触診/工藤 慎太郎/羊土社/2019				
参考書	論理的文章作法<帰納法・演繹法・弁証法で書く>、西田みどり、知玄社/2017 大学生からのグループ・ディスカッション入門、中野美香、ナカニシ社/2018 考える技術・核技術 日本人のロジカルシンキング実践法、山崎康司、ダイヤモンド社/2011 基礎運動学第6版、中村 隆一 他、医歯薬出版 /2003				
外部教材	特になし				
学生が達成すべき行動目標				関連卒業認定・学位授与方針	
①	理学療法における基礎医学の意義を理解し、説明できる。			PT (1)、(3)、(6)	
②	理学療法における論理的思考方法を理解し、説明できる。			PT (1)、(3)、(6)	
③	理学療法におけるグループワークの活用方法を理解し、実践できる			PT (2)、(4)、(5)	
④	理学療法におけるプレゼンテーションの方法を理解し、実践できる。			PT (2)、(4)、(5)	
⑤	骨・筋の触診技能を習得し、特徴や機能について説明できる。			PT (3)、(4)、(5)、(6)	
授 業 計 画					
回	学習内容等	授業の方法	学習課題・学習時間 (時間)		
1	「概要」担当 <坂本祐太> 理学療法演習 I -2 の学修内容について解説する。	講義	0		
2	「専門基礎」担当 <坂本祐太 他> 理学療法に関連する基礎医学の内容について、グループワークでの討論によって理解を深める。	演習	基礎医学の知識を用いる課題に対し、グループワークでの討論をする。グループでプレゼンテーションを作成し、発表準備をする。担当教員からの指導を受ける。		
3	「専門基礎」担当 <坂本祐太 他> 理学療法に関連する基礎医学の内容について、グループワークでの討論によって理解を深める。	演習			
4	「専門基礎」担当 <坂本祐太 他> 理学療法に関連する臨床医学の内容について、グループワークでの討論によって理解を深める。	演習			
5	「専門基礎」担当 <坂本祐太 他> 理学療法に関連する臨床医学の内容について、グループワークでの討論によって理解を深める。	演習			
6	「専門基礎」担当 <坂本祐太 他> 理学療法に関連する専門基礎領域の内容について、グループワークでの討論によって理解を深める。プレゼンの準備をする。	演習			
7	「専門基礎」担当 <坂本祐太 他> プレゼンテーションの発表をする。	講義			
8	「専門基礎」担当 <坂本祐太 他> プレゼンテーションの発表をする。	講義	解剖学、運動学を復習する。骨・筋の名称や部位、運動方向等の運動学の基本的知識の復習をする。触診の練習を行う。		
9	「触診課題」<坂本祐太 他> 上肢の骨および筋について講義、グループで学習する。	講義・演習			
10	「触診課題」<坂本祐太 他> 上肢の骨および筋について講義、グループで学習する。	講義・演習			
11	「触診課題」<坂本祐太 他> 頭部・体幹についてグループ講義、グループで学習する。	講義・演習			
12	「触診課題」<坂本祐太 他> 触診についてグループで学習する。	演習			
13	「触診課題」<坂本祐太 他> 触診についてグループで学習する。	演習			

【2022 年度/専門科目領域/専門科目群/理学療法学科】

14	「触診課題」<坂本祐太 他> 触診について実技総復習、実技試験をする。	実技		
15	「触診課題」<坂本祐太 他> 触診について実技総復習、実技試験をする。	実技		
試	筆記試験をおこなう			

達成度評価							
総合評価割合 (%)		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	合計
		60	0	40	0	0	100
総合力指標	知識・技術力	20	0	0	0	0	20
	思考・推論・創造する力	10	0	10	0	0	20
	協調性・リーダーシップ	0	0	5	0	0	5
	発表・表現伝達する力	20	0	10	0	0	30
	コミュニケーション力	0	0	5	0	0	5
	取組みの姿勢・意欲	10	0	5	0	0	15
	問題を発見・解決する力	0	0	5	0	0	5

評価のポイント				フィードバックの方法
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点		
実技試験	①	✓	授業の中で行われる骨・筋の触診を口頭試問、実技試験にて成績判定とする (30%)。	必要に応じて、解説を行う。
	②	✓		
	③	✓		
	④	✓		
	⑤	✓		
筆記試験	①	✓	①論理的思考方法、グループワーク、文章作成方法に関する知識について、②骨筋関節の触診に関する知識について筆記試験を行い、成績判定とする (30%)。	必要に応じて、解説を行う。
	②	✓		
	③			
	④			
	⑤	✓		
成果発表	①	✓	「専門基礎」の発表を評価し、成績判定とする。成績判定には、教員による評価と演習班内の学生同士による評価を用いる。学生同士による評価では、課題への取り組み、発表への参加を評価する (40%)	必要に応じて、解説を行う。
	②			
	③	✓		
	④	✓		
	⑤			

備考

他担当教員	高村 浩司、粕山 達也、三科 貴博、関口 賢人、関根 聡美、遠藤 悠介、駒形 純也、大塚 篤也、甘利 貴志 他
教員の実務経験	理学療法士として7年の臨床経験がある。
実践的授業の内容	前期に学修したグループワーク、思考法、プレゼンテーションスキルを用いて、基礎医学について科目横断的に知識を統合し、演習によって理解を深める。また、部分的には今後学習する運動療法学、病理学、疾患についても触れることで、能動的学習を経験する。理学療法において必須となる骨、筋の基礎的知識に関する実技を行うことで、理学療法の理解や知識の統合を促す。
その他	この科目では、多くの授業においてグループ単位での活動をする。授業外での活動が重要になるため、学生間、教員との連絡の際には相手を尊重し、授業内で講義する連絡取り方について理解し、マナーを守ること。PCを使用する場面があるため、準備しておくこと。 感染対策 ：大学が公表している感染対策および教員が示す授業方法を厳守すること。問題がある場合は面接授業の参加は認めない。 今後の新型コロナウイルス感染症の状況など社会情勢によって授業形態の変更など、再度シラバスの変更がある可能性がある。また、授業の進行状況により、一部変更される場合がある。